

このコーナーでは、農業のちょっとしたコツを、市の営農指導員からお知らせします。

営農指導員の
ワンポイントアドバイス

営農指導員 永興ながおき
啓はじめ

サクラの切り枝栽培

経営上の特性

遊休地を活用した栽培には、最も適している花きでしょう。一度植え付けたら10年以上切り枝を継続でき、その間の管理は除草と年1回の施肥くらいで、手間がかかりません。

難点は植え付け後切り枝までに数年を要するため、その間に雑草に負けないようにすることが大切です。

花が少ない時期の出荷になるため、有利販売が期待できます。



品種と栽培の概要

切り枝専用品種としては、「啓翁桜」が一般的です。

苗の植え付けは11月または3月が適しています。植え付け後4年

くらいは株を育て、切り枝は行いません。その間、特別な管理は必要ありません。切り枝は早くても4年からになります。

栽培の方法

①ポイント

生育中に肥料分が多すぎると、品質が大きく低下するので、肥料のやりすぎに注意します。

②肥料

株養成中は冬期に1アール当たり鶏糞を10キロ施用し、5月ごろに化成肥料をチッソ成分量で0.4キロ施用するだけにします。

成株では肥料が多いと二次成長して品質を低下させるので、5月に化成肥料をチッソ成分量で1アール当たり0.4キロ施用します。

③病害虫

▼カイガラムシ：病気や害虫の害は受けにくい花きですが、まれにカイガラムシが繁殖することがあります。多発したら早春と落葉時に薬剤散布を行います。

問い合わせ

農業振興課農業振興係

☎0824・73・1132

第6話



比婆いざなみ街道物語

街道沿線に存在するさまざまな資源をシリーズでお伝えする「比婆いざなみ街道物語」。

先月号に続いて、いざなみツク2019第3回比婆いざなみ街道マラニックのコースの見どころをご紹介します。今回は高野地域です。

「比婆山を望む
下湯川の常夜燈」

比和町から高野町へ向かって王居峠トンネルを抜けると目の前に田園地帯が広がります。国道432号を市役所高野支所に向けて進むと下湯川に「常夜燈」が建立されています。この常夜燈は、比婆山を遥拝するポイントとして備後西口の参詣路上に置かれ、遠方からの巡礼者を導く陸の灯台のような役割を果たしてきました。この常夜燈から遥か東に比婆山を見ることが出来ます。

「上高野山の
乳下がり大イチョウ」

国道432号をさらに進むと、天満神社の境内にある「乳下がり大イチョウ」が見えてきます。樹齢は千年近いと推定され、幹囲9.6メートルと県下第1位の巨木で、広島県の天然記念物に指定されています。



す。10月下旬から11月上旬には、艶やかな黄葉を身にまとい、圧倒的な姿を見せてくれます。

「高野アツプルロード」

りんごの産地高野町下門田地区にある「アツプルロード」も見どころのひとつ。

高野町は年間平均気温が約10℃と冷涼な気候で朝夕の気温差が大きいことから、りんごの栽培に適した地とされ、約60年前に本格的な栽培が始まりました。



その当時は、栽培技術が確立されておらず、大変な苦勞もあったとのことですが、そうした苦難を乗り越えて栽培されるりんごは、実が締まり、酸味と甘味のバランスが絶妙でおいしいと評判を呼び、今では広島県を代表するりんごの産地として広く認知されるようになりました。

いざなみツクが開催される11月はまさにりんごが旬を迎えます。りんごのほのかな香りを楽しみながら、高原のまち高野町を駆け抜けてみませんか？

問い合わせ

いちばんづくり課いちばんづくり係
☎0824・73・1278